

いしかりちほん

さようなら原発 全道集会

脱原発を訴え

1000人以上が結集!!



脱原発を訴え、集会に結集した参加者

9月18日、札幌芸術文化の館にて1000万人アクションIN北海道集会在開催され、雨の中、1000人以上が「脱原発」を訴えるため結集した。

冒頭、主催者代表として、

山田剛代表は、「7割を超える人が次世代に向けて依存度を下げる必要があると感じている。泊原発の再稼働は許さず、身近な原発からとめていく。道民と一体となって1000万人署名をはじめさまざまな運動を展開していく。」とあいさつした。

続くリレートークでは、原発問題に関わる各地から報告



あいさつする山田代表



被災者でもある宍戸隆子氏

があり、福島県伊達市から札幌市へ非難している宍戸氏からは「原発事故で失ったものは、家や家族や仕事だけではない、事故後、被災者に対しても誹謗中傷の聲が浴びせられ、人と人のつながりも失われた。自分は北海道に受け入れてもらったが、北海道の人たちに同じ苦しみを味わってほしくない。原発は止められる、皆さんの力を貸してほしい。」と切実な思いが語られた。

一方、大間原発問題を抱える函館からは、訴訟の会の中

発行
2011年9月20日
臨時号
〒060-0806
札幌市北区北6条
西7丁目
自治労北海道本部内
石狩地方本部
村上真仁
TEL:011-747-1880

森氏より「大間原発はウランより濃度が13倍も高いフルMOX燃料を使用するのが最大の問題。また、世界ではじめて火山帯の上に作られる原発である。距離的にも万一事故が起これば、4時間で函館に放射能が到達するという専門家の報告がある。」という現状が報告された。

また、唯一道内に原発がある泊からは、元保育士だった斎藤氏が紙芝居で泊問題を解説、「泊3号機は、従来の安全基準とは異なり、人為的な操作で、かろうじて基準に合格させたきわめて問題のある炉である。」と改めて泊原発の問題点を浮き彫りにした。



紙芝居で泊原発の問題を指摘する斎藤氏



最後に、すべての原発をなくそう！ さようなら原発！

との集会アピールを全体で確認し、集会を締めくくった。

集会終了後、参加者は降りしきる雨の中、「原発をなくそう！」「子どもたちを放射能からまもろう！」とシユプレヒコールをあげ、市内をデモ行進して市民に「さようなら原発」を訴えた。

▼▽書記局から▲▲

雨の中、各単組・総支部から多くの皆様にご参加いただきました。大変感謝いたします。引き続き署名活動にもぜひご協力をお願いいたします。(む)